

経営比較分析表（平成28年度決算）

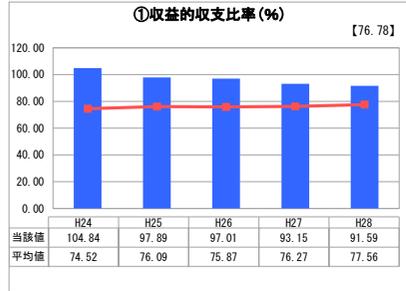
埼玉県 東秩父村

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法非適用	水道事業	簡易水道事業	D3	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)	
-	該当数値なし	98.32	2,894	

人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
2,993	37.06	80.76
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
2,921	9.37	311.74

グラフ凡例
■ 当該団体値(当該値)
— 類似団体平均値(平均値)
【】 平成28年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



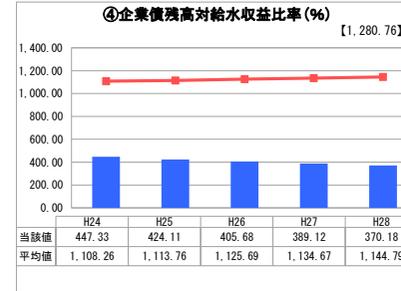
「単年度の収支」



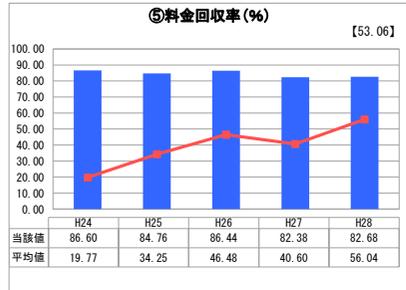
「累積欠損」



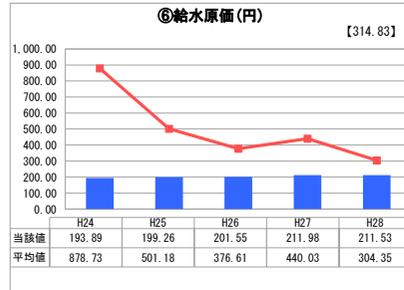
「支払能力」



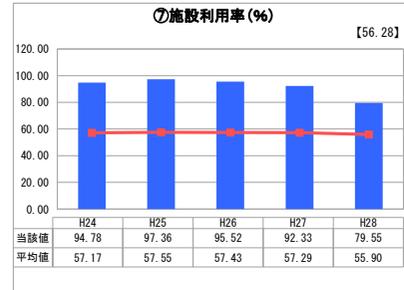
「債務残高」



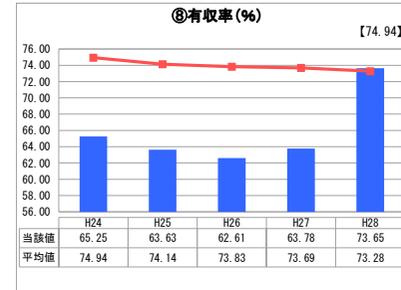
「料金水準の適切性」



「費用の効率性」

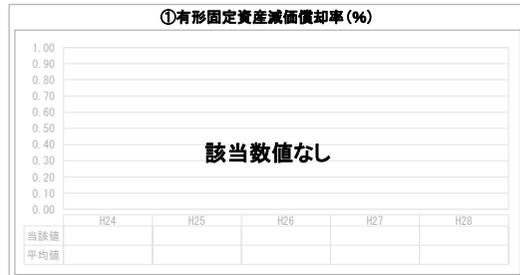


「施設の効率性」

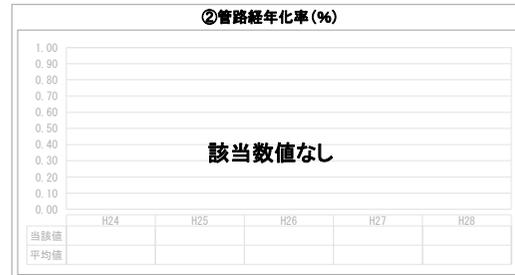


「供給した配水量の効率性」

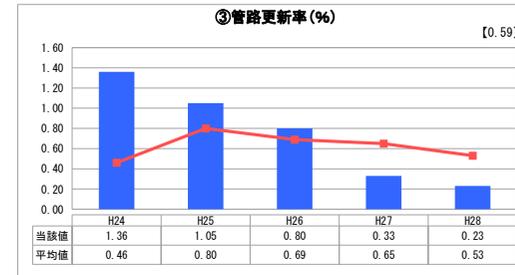
2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「管路の経年化の状況」



「管路の更新投資の実施状況」

分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

収益的収支比率において、類似団体の平均値は上回っているが100%を下回っているため、今後更なる費用削減や更新投資等の財源確保が必要です。企業債残高対給水収益比率については、毎年減少傾向にありますが、今後、老朽化施設の更新等により、企業債残高が増大する可能性があるため投資規模、料金水準が適切に見極めていく必要があります。また、給水原価も類似団体の平均値を下回っていますが、今後老朽化施設の更新等があるため、給水原価の高騰が予想され、水道料金の安定確保が必要です。施設利用率については、平成28年度において減少はしていますが、類似団体の平均値を上回っており施設を効率的に利用している状況です。しかし、施設の老朽化や今後の水需要等を踏まえ、施設の統廃合及びダウンサイジング等の検討をする必要があります。有収率については、類似団体の平均値を上回っており上昇傾向にあるため、今後も引き続き老朽管布設等の推進や漏水調査を実施し、有収率の更なる向上に努めます。

2. 老朽化の状況について

管路更新については、類似団体の平均値を下回ってしまったので、毎年更新率が低くならないよう計画的に更新を実施していく必要があります。水道施設も老朽化しており、更新時期を迎えるので、施設の統廃合、管路の適正化等について財政状況を勘案し、計画的に進めていく必要があります。

全体総括

各指標の値を類似団体と比較すると、良好な指標は多いですが、今後施設の老朽化、耐震化等の更新需要増大が見込まれます。今後も健全な事業運営を継続していくために、基本計画の策定、アセットマネジメント等を実施し、施設統廃合や中長期的な視点に立った財政面の見直しを行うことにより健全な水道事業の運営を進めていきます。

※ 平成24年度から平成25年度における各指標の類似団体平均値は、当時の事業数を基に算出していますが、管路更新率については、平成26年度の事業数を基に類似団体平均値を算出しています。